

## 人文科学研究科 心理学専攻

### ◎ディプロマ・ポリシー

#### 【学位授与方針】

人文科学研究科心理学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

人文科学研究科心理学専攻における体系的学習を通じて、心理学についての高度でかつ広範な専門的知識・技能を修得して、それらを現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと論理的思考力・創造的思考力を身につけていること。

専門職・研究者として社会において求められる態度・責任感・倫理観を持ち、豊かな感性を持って、主体的かつ協同的に社会に奉仕する志を養っていること。

#### 【学生が身に付けるべき資質・能力】

##### 1. 専門的知識 分析・表現・応用力

心理学全般に関する高度な知識や方法論、実践論等に精通し、専門領域において求められる分析力、表現力、応用力を十分に修得していること。

##### 2. 専門職・研究者としての態度（主体性 協同 社会規範）

時代に求められる、自覚ある専門職・研究者として、その責務を十分に理解し、適切な倫理観と豊かな感性とともに、常に科学的視座をもち、主体的かつ協同して社会諸課題解決に向け貢献する志を修得していること。

##### 3. 心理臨床専門職としての能力修得

心理臨床の場における多様な状況において、充分に対応できる実践力や、治療的理論、技法等に習熟し、かつ、人間に対する、深い洞察力、共感性を修得していること（臨床心理学領域）。

##### 4. 心理行動科学研究実践のための能力修得

専門的領域における最新の知識、研究等に精通し、更に、自らそれを分析、深化する能力を有し、各研究領域において、応用、探究できる能力を修得していること（心理行動科学領域）。

#### 【学位授与の要件】

心理学専攻の教育目標を理解し、必修科目を含む設置された講義・演習・実習科目から30単位を履修し、専門的知識、実践的スキル、専門職・研究者としての態度・能力を修得していること。

## ◎カリキュラム・ポリシー

### 【教育課程編成】

臨床心理学領域：

1. 臨床心理学の基礎を必修とし、実習・スーパーヴィジョンにより心理臨床領域の実践力が身につくようカリキュラムを編成する。
2. 臨床心理学の基礎と実習のみならず、認知、社会、発達など幅広い科目を設置し、心理学全般の高度な知識、理解力を養成する科目を設置する。
3. 多様な現場に対応した即戦力・応用力を身につけられるよう、各種の治療的理論や技法、心理療法を修得するための科目を配置する。

心理行動科学領域：

1. 最新の研究成果を示し、心理学の専門職に求められる高度な知識や分析力を修得できるようカリキュラムを編成する。
2. 認知心理学分野と社会心理学分野を中心に、人間の知的機能や対人関係のメカニズムを深く探究し、主体的に研究を行い得る能力を養成する科目を配置する。

### 【学修方法・学修過程】

#### 1. 講義科目

臨床心理学領域では問題解決型学習、役割体験学習、課題学習を行う。心理行動科学領域では問題解決型学習、課題学習を行う。教員と院生だけでなく院生同士の討論を行うことによって、学習目的達成および学習内容の理解を深める。

#### 2. 演習科目

課題に取り組むために、文献講読・調査を主に行う。講読・調査内容はレジメを作成するだけでなく内容についてのプレゼンテーションを行う。院生間、院生と教員間で討論を行い、レポート作成によって課題の理解を深める。

#### 3. 実習科目

臨床心理学領域においては、学内の臨床心理相談センターおよび学外の医療・教育・福祉・司法・産業等の多領域にわたる実習協力機関で、実習を行う。事前指導における倫理的な教育はしっかり行う。実習に関するスーパーヴィジョンおよびケース・カンファレンスを通じた丁寧な指導を行うことにより、院生の理解を深める。

#### 4. 研究指導

実証的、論理的な研究を進めるため、テーマの選定や実証方法・分析方法の選択、論文構成や内容等に関して、指導教員が綿密な個別指導を行う。また、中間発表会・最終報告会

等により集団指導を行う。両領域とも研究指導の中で研究倫理を丁寧に学ぶ。

#### 5. 特色ある教育

臨床心理学領域では、臨床心理学領域以外の多様なカリキュラムを設置し、心理学全般に関する幅広い視点での学修が可能である。また、多彩な実習先を設定しているため、心理臨床の実践力が身につく。心理行動科学領域では、認知心理学と社会心理学を中心とした高度な知識と分析力の修得が可能である。

#### 6. キャリア教育

学内・学外の機関等で実習・調査を行う場合、事前に日本臨床心理士会の倫理綱領および日本心理学会倫理規程に基づく倫理や各機関の職務規程についてのガイダンスを実施する。大学院修了後も外部実習・調査についてのレポート作成・報告および研究論文作成などに際して、守秘義務と個人情報保護に関する指導を行う。

各種学会への入会と参加を推奨している。臨床心理学領域では日本心理臨床学会、心理行動科学領域では日本心理学会、への入会および学会活動を勧めている。

臨床心理学領域では、公認心理師および臨床心理士受験のサポートを行う。

#### 7. 学生への教育支援

研究・実習を円滑に行うために、情報・研究機器および心理検査器具を多数用意する。また体験・実践的な学びを深めることのために、実習・演習科目ではグループ活動を含めたアクティブラーニングを積極的に取り入れる。また公認心理師・臨床心理士資格に関する情報提供をし、個別サポートや授業外講習会を行う。

#### 【学修成果の評価の在り方】

受け身の学修ではない学生の主体的な課題解決への取り組みを重視する。取り組んだ課題について、テーマ選択から結果の分析・検証に関してのまとめ方を評価する。その際、レポートそのもの、およびプレゼンテーション・討論能力等を総合的に評価する。

### ◎アドミッション・ポリシー

#### 【求める学生像】

1. 心理学に関する基礎的知識を有し、科学的思考のできる人
2. 具体的な現実認識のもとに、人間に対して、深く共感的理解のできる人
3. 主体性を持ちつつ、様々な人々と協働研究・実践のできる人
4. 心理臨床の実務体験を基礎とし、専門職・専門的研究に強い関心・意志を持つ人  
(臨床心理学領域)

5. 人間の心的機能を科学的に分析し、そのメカニズムを探究する専門的研究に強い関心・意思を持つ人（心理行動科学領域）

#### **【入学前に培うことを求める力】**

1. 研究および実践に必要な知識を培うこと。
2. 論理的思考力、判断力および表現力を培うこと。
3. 主体性を持ちつつ他者を尊重・共感する姿勢、および他者との協働できる力を培うこと。

#### **【評価方法】**

上記の人材を選抜するために3種類の入試制度を設けている。

全入試とも履歴書と研究計画書等の提出を求め、上記「入学前に培うことを求める力」の1. および2. を評価する。

全入試において実施する筆記試験において、上記「入学前に培うことを求める力」の1. を評価する。

全入試とも面接試験を実施し、上記「入学前に培うことを求める力」の3. を評価する。

#### **【入学前に学習することを期待される内容】**

心理学研究に必要な心理学および心理学関連領域の基礎的知識に加え、研究実施に不可欠な心理学研究法・心理統計法の学修を期待する。

多面的・学際的な知識修得に必要な基礎的英語力の学修を期待する。

## 人文科学研究科 教育学専攻

### ◎ディプロマ・ポリシー

#### 【学位授与方針】

教育学専攻では、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。学校教育、とりわけ小学校教育に関する現状の理解、教育課程等の改善の方向や内容等、さらには学校と地域社会との連携、インクルーシブ教育システムの構築の推進の考え方や方向性を的確に理解し、その課題の解決やよりよい取組の在り方等について一定の知見と実践力を身に付けていること。

#### 【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 小学校教員としての教職専門性を持ち、教育改革の動向等を的確に踏まえつつ、教科指導、学級経営をリードできる、高度な教育実践力を身に付けていること。
2. 学校、家庭、地域社会の連携によって、関連諸科学の成果を活用しつつ、児童一人一人の個性・能力の伸張を目指し、情熱を持って指導できる教育実践力を身に付けていること。

#### 【学位授与の基準】

- ・小学校教師としての使命と責任を持ち、高度な教職専門性と教育実践力をしなえるという教育学専攻の教育目的を実現していること。
- ・教育課程を構成する科目群の中から自己の課題等に応じて選択履修した科目について所定の単位数を習得し、その後の研究や教育実践を推進できる資質・能力を身に付けていること。

### ◎カリキュラム・ポリシー

#### 【教育課程の編成】

教育学専攻では、「学び続ける教員」の養成のために、カリキュラムを「理論と実践の往還型カリキュラムム」として編成するとともに、インクルーシブ教育システム構築指導法を実現できる専門的実践力の育成を図る。

#### 【学修方法・学修過程】

- ・小学校教員としての使命感と責任感を持ち、教育実践を支える教育理念を確実にするため、教育思想、教育史に関する「特論」と「演習」の科目を配置する。
- ・国語教育、算数教育を中心とした教科教育、道徳教育、特別支援教育においては、「理論と方法」に関する科目を配置して、児童の認知発達や精神発達の視点から教育内容の分析を行い、理論と実践を架橋する手法を習得する。

・「学び続ける教員」としての資質能力の育成を目指して、「実践法」に関する演習科目「実践演習」を配置する。この科目では、実際の教育現場で実践的・実証的な研究を実施できるよう、地域の小学校、特別支援学校等との連携により教職実践交流を実施する。

・インクルーシブ教育の実現に向けて教育課程を構造的に編成する。すなわち、特別支援教育に関する「理路と方法」、「実践法」及び「実践法」をコアとして、その周囲に、教科教育、道徳教育、学校経営（学級経営）の各科目を位置付け、さらにその周囲に、教育思想、教育史、発達心理学、学校カウンセリングの各科目を位置付けることにより、各科目の包含関係と科目の特徴、役割等を明確にして、専攻としての教育課程全体を関連付けて構造化する。

・インクルーシブ教育の推進において養成される学校経営、学級経営、学習指導法等の教育実践力、教育専門性の一層の向上のために、地域の小学校及び特別支援学校等関係学校間の連携、特別支援学級指導者、通級指導者との連携、地域教育センター・教育委員会等との連携を通して、教職実践交流を図る「特別支援教育実践法」、「特別支援教育実践演習Ⅰ」、「同Ⅱ」を設置する。

#### 特色ある教育

教育委員会の協力により、地域の小学校の通常学級、特別支援学級、特別支援学校との教職実践交流を実施する。

我孫子市特別支援教育ネットワークの利用を通して、子ども発達センター（幼稚園児等対象）、福祉・医療の専門機関等の多様な機関と連携して学修し包括的職能力を習得する。

#### 【学修成果の評価の在り方】

GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。

各学生の学修の展開と成果を学修ポートフォリオによって評価する。

実習の記録などを通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

ルーブリックにより、基礎的な学力、思考力、主体的な協働を評価する。

### ◎アドミッション・ポリシー

#### 【求める学生像】

1. 「感謝の心」を土台として協調性と主体性を兼ね備え、自ら学び続ける女性教員を目指したい人
2. 少人数教育を通して、インクルーシブ教育を含めた教員に必要な専門性、実践性と今日の社会に対応するための課題解決能力を身に付けたい人
3. 児童に対する深い愛情を持ち、児童一人一人の課題に対応しつつ、児童の創造的な学習活動を支えていく能力を獲得し、教育に関連する分野で社会貢献をしたい人

### 【入学前に培うことを求める力】

#### 1. 知識・技能

教職の専門的知識・技能を身に付けるとともに、それらの知識・技能を活用して、思考、判断、表現の伴う学習活動を効果的に展開する学力を有している。

#### 2. 思考力・判断力・表現力等の能力

様々な課題に対して解決方法を探して計画的に実行したり、情報を基に自分の考えを形成したりする学習過程の中で思考力、判断力、表現力等を育てている。

#### 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な立場を理解し、地域学校協働活動等を通して互いに協力し合うために必要なコミュニケーションの基本的能力を身に付けている。また、ボランティアなど諸活動を積極的に取り組んでいく意思を持っている。

### 【評価方法】

上記の人材を選抜するため、次の入学試験を、それぞれの試験科目・内容で実施する。

1. 一般入学試験（論述又は英語、小論文、面接）
2. 社会人入学試験（論述、小論文、面接）
3. 現職教員入学試験（論述、小論文、面接）

その際の評価の考え方と方法については、上記【入学前に培うことを求める力】に照らしつつ、書類審査（出願書類等）も加えて総合的に判断を行う。

## 人文科学研究科 比較文化専攻

### ◎ディプロマ・ポリシー

#### <比較文化専攻 博士前期課程>

##### 【授与方針】

比較文化専攻博士前期課程では、研究者としての自覚を涵養し、専門分野における高度な知識を生かして社会に貢献できる人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、修士論文を完成した学生に修士（文学）の学位を授与する。

##### 【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 人文社会諸科学に関する学識を有し、研究分野における高度な専門知識及び方法論に習熟している。
2. 研究分野における課題探求力、分析力、考察力があり、自分の考えを論理的に展開でき、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。
3. 主体性を持ち、研究に携わる他の人々と協力して問題の解決に取り組むことができる。

##### 【学位授与の基準】

- ・人文社会諸科学の研究分野における高度な専門知識を身に付け、それを問題解決のために運用することができる力を有していること。
- ・社会における貢献を目指し、他者と交流して問題解決に取り組む姿勢を有していること。

#### <比較文化専攻 博士後期課程>

##### 【授与方針】

比較文化専攻博士後期課程では、研究者としての自覚とふさわしい人格を有し、研究分野における学際的視野と知識を以て真摯に問題に取り組む人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、博士論文を完成した学生に博士（文学）の学位を授与する。

##### 【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 人文社会諸科学に関する学際的な知識、研究分野における高度な学術的知見を有し、独自性のある視点から研究ができる。
2. 研究分野における問題提起力、分析・考察力、論理的展開力があり、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。



3. 主体的に研究に取り組み、他の研究者の意見を真摯に聞き、協力して問題解決に取り組むことができる。

#### **【学位の授与の基準】**

- ・人文社会諸科学の研究者としての自覚を持ち、専門分野の高度な知見を社会に生かそうとしていること。
- ・独自性のある研究業績を公表していること。
- ・社会における貢献を目指し、他の研究者と交流できること。

### ◎カリキュラム・ポリシー

#### <比較文化専攻 博士前期課程>

##### **【教育課程の編成】**

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の3分野からなり、学際的知見を身につけ、修士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

1. 地域文化研究分野では、日本、アジア、欧米等の諸地域に関する歴史・文化・地理等の高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
2. 社会・文化コミュニケーション分野では、宗教、言語、教育、民俗、地域活動に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
3. 女性学分野では、ジェンダーにおける歴史、教育、批評に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
4. 専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方等を習得できる基礎科目を配置している。

##### **【学修方法・学修過程】**

1. 地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。
2. 基礎科目によって、専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方を習得する。
3. 指導主任教員からの研究指導に加え、年に2回、研究発表会で研究成果を口頭で発表し、他の教員、学生から助言を得る。
4. 学修の集大成として、専門的な視点から修士論文を完成させる。

### 【学修成果の評価】

GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

### <比較文化専攻 博士後期課程>

#### 【教育課程の編成】

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の3分野からなり、高度に学際的かつ独自性のある視点から研究を行い、博士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

#### 【学修方法・学修過程】

1. 地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。
2. 長期研究計画書作成し、指導主任教員及び他の教員からの指導・助言を得ながら、研究成果を年2回、研究成果発表会で口頭発表し、他の学生や教員から講評を得る。
3. 研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』に1編以上掲載する。さらに査読付の学術研究誌に2編以上論文を掲載する。
4. 学修の集大成として博士論文を完成する。

#### 【学修成果の評価】

GPA による成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究成果発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

## ◎アドミッション・ポリシー

### <比較文化専攻 博士前期課程>

#### 【求める学生像】

比較文化専攻では、諸地域の文化、地理、社会、宗教、教育、言語、民俗、地域活動、ジェンダー等に関する高度な知識を習得し、現代社会の諸問題に取り組み、解決しようという意欲のある人を求めている。

#### 【入学前に培うことを求める力】

1. 知識・技能  
人文社会諸科学の研究に必要な基礎的教養を備えている。

## 2. 思考力・判断力・表現力等の能力

人文社会諸科学の諸問題に関心を持ち、自ら課題を見つけ、それに対する自分の意見を論理的に表現することができる。

## 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

異なる考えを持つ人々の意見を理解し、建設的に意見交換ができ、相互に協力して問題解決ができる。

### 【評価方法】

#### 1. 知識・技能

入学試験、調査書、卒業研究、面接によって評価する。

#### 2. 思考力・判断力・表現力等

入学試験、卒業研究、面接によって評価する。

#### 3. 主体性・協働力

調査書、面接によって評価する。

## <比較文化専攻 博士後期課程>

### 【求める学生像】

修士課程を修了、あるいはこれと同等の学力を有し、日本・アジア・欧米諸地域の文化・社会、地理に関する高度に学際的、かつ独自性のある視点から研究しようという意欲のある人を求めている。

### 【入学前に培うことを求める力】

#### 1. 知識・技能

人文社会諸科学の研究に必要な高度な専門的知識を備えている。

#### 2. 思考力・判断力・表現力等の能力

人文社会諸科学において、問題提起ができ、高度に専門的・学際的な見地から独自の意見を論理的に展開できる。

#### 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

他者の意見を真摯に聞き、相互に協力して積極的に問題解決に取り組むことができる。

### 【評価方法】

#### 1. 知識・技能

入学試験、調査書、修士論文、面接によって評価する。

2. 思考力・判断力・表現力等

入学試験、修士論文、面接によって評価する。

3. 主体性・協働性

面接によって評価する。